



家畜衛生情報

29-2
H29.5.1

ハエの発生する季節です。 早めの対策を進めましょう！

気温が上昇し、ハエの発生が目立つ時季です。

- ・ハエの産卵個数は50～150個/回で約2週間で成虫になります。
- ・ハエ対策を怠ると大量発生し、家畜のストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情などの弊害が生じます。
- ・薬剤を適切な濃度で使用し、効率的な防除に努めましょう。

*ハエのライフサイクル：卵（約1日）→うじ（約2日）→蛹（数日間）→成虫（約3週間生存）

幼虫対策

・昆虫発育抑制剤(IGR剤)の使用

糞堆積場や畜舎床の糞に均一に定期的(1ヶ月間隔)に散布します。

費用対効果が高く、ハエ対策の基本的対策です。うじの発生する場所にIGR剤(脱皮抑制剤)を水で希釀して1ヶ月毎に散布します。

- ・薬剤の濃度を守り、十分な量を均一に散布します。散布する間隔があき、薬効に切れ目をつくると十分な効果は得られません。
- ・IGR剤としてシロマジン剤、ジフルベンズロン剤、ピリプロキシフェン剤等があります。

成虫対策

- ・ハエが増えてきたらIGR剤の散布回数を2週間間隔に増やし、毒餌法をあわせて実施します。

・毒餌法は、ハエを引きつける砂糖や粉ミルク、お酒、糖蜜などに有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して洗面器等に浅く入れておき成虫を退治します。

(方法) ① 薬剤を水で10倍に希釀する。

② 0.5%程度の糖蜜や砂糖水を混合して洗面器等に適量入れる。

必要に応じて粉ミルク、お酒を加える。

③ 農場内の適切な場所に配置する

* 注意：家畜やペットが誤って摂取しないように注意が必要です。

有機リン系：トリクロルホン剤、フェニトロチオン剤、プロチオホス剤など

カーバメイト系：プロポクスル剤、カルバリル剤、バリゾン乳剤など

固形の毒餌としては、イミダクトプリド剤が市販されています。

【注意】畜産物に殺虫薬剤を残留させないよう、畜体への直接噴霧を認められていない薬品を使用する際には、家畜に暴露させないこと、休薬期間(使用禁止期間)を守ること等、定められた用法・用量を守って使用して下さい。また、使用の際には記録を残しておきましょう。

